

平成27年度障害者支援施設けやきの村事業報告書

障害者支援施設として快適な環境のもとで、個人の尊厳が最大限に尊重され、自己決定に基づくその人らしい生活の実現をめざすとともに、地域生活を支える多様な事業の展開と就労に関する支援を充実させ一般企業への就労を含めた社会経済活動への参加を促進するなど、利用者の自己実現をめざした支援を行うため、「平成27年度社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、それぞれの分野において関係法令に則った適正なサービスの提供と質の向上に努め、次の各項目にそって事業を行いました。

1. 実施した障害福祉サービス事業

(1) 生活介護事業

利用者が自己決定に基づいたその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護、機能維持のためのリハビリ訓練、生活の質を高めるための集団レクリエーション活動、創作的活動または生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(2) 就労移行支援事業

利用者の就労に対する意欲を十分に尊重し、生産活動その他の活動を通して、就労に必要な知識および技能の習得及び地域生活に必要な能力を身に付けるため、必要な訓練・実習その他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(3) 就労継続B型事業

利用者の働きたいという意欲を十分に尊重し、その人に合った生産活動の場を提供するとともに社会生活における習慣の体得と技能の習得ができるよう、必要な訓練およびその他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(4) 施設入所支援事業

利用者が日中活動と併せて夜間においてその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(5) 短期入所事業

居宅においてその介護を行う方の疾病その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者に対し、短期間の入所をさせ入浴・排泄および食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(6) 訪問介護・居宅介護事業

障害者自立支援法及び介護保険の理念のもと、利用者が居宅において自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴・排泄及び食事等の介護、調理・洗濯および掃除等の家事ならびに生活等に関する相談および助言その他の生活全般に援助を適切かつ効果的に行いました。

(7) 特定相談支援事業

障害福祉サービス利用者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、サービス等利用計画作成にあたりケアマネジメントの手法によるきめ細かな支援を行いました。

2. 運営管理及び諸会議等

(1) 施設は、契約に基づいた利用者本位の支援の提供を基本とし、次の環境整備を行ったほか、下記の寄付物品をいただきました。

〔環境整備〕

- ①電話機増設（生活支援課事務室、浴室）
- ②機械浴室床張替工事
- ③109号室間仕切り取付工事
- ④浄化槽調整ポンプ修繕
- ⑤空調機GHP室外機等修繕
- ⑥非常照明器具バッテリー取替工事
- ⑦エレベーターバッテリー交換工事

〔物品購入〕

- ①電動ギャジベッド（3モーター）更新（3台）
- ②入浴介護用ストレッチャー購入
- ③ノートパソコン購入（1台）

〔寄付物品〕

- ①液晶テレビ寄贈（パナソニックAVCネットワーク労働組合様）
- ②掃除機寄贈（パナソニックAVCネットワーク労働組合様）

（2）サービス提供の主体として、利用者の選択に十分に応えることができるよう、サービスの質の向上を図るため「福祉サービス第三者評価基準」をもとにサービスの自己評価を行いました。

（3）個別支援計画策定会議を開催し、利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況及びニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づいた適切なサービスの提供に努めました。

個別支援計画策定会議開催回数；94回

（生活介護；36回・就労支援B型；37回・就労移行；21回）

（4）施設の適正な運営のため次の会議を開催しました。

マネジメント会議；13回

（5）公正・公平な事業運営と利用者のサービス選択に資するため、サービス内容に関する情報の提供、財務諸表および事業報告書等の開示を行うとともに、法人機関紙として「けやきの村便り」を3回発行しました。なお、平成26年3月31日に開設した公式ホームページを積極的に活用し、情報提供・情報開示を行いました。

（6）福祉サービスに対する利用者の苦情や意見を汲み上げ、利用者と施設が対等の関係を築くとともに利用者本位の福祉サービス提供を実現するために苦情解決委員会を開催し、苦情解決体制の充実に努めました。

苦情解決委員会；平成27年6月10日開催

平成27年度における苦情については、下記のとおりである。

苦情受付件数；0件

（7）利用者が施設において、安心・安全な生活が送れるよう、ヒヤリ・ハット・事故報告書による未然防止および再発防止に努めるためにリスクマネジメント委員会を開催しました。

ヒヤリ・ハット・事故報告件数；44件（前年度比8件減）

〔内訳〕転倒～35件（前年度比2件増）・外傷～0件（前年度比7件減）

破損等～0件（前年度比3件減）・接触～1件（前年度比2件減）

火傷～1件（前年度比1件増）・誤飲、誤嚥～1件（前年度比増減なし）

その他～6件（前年度比1件増）

上記の44件のうち、平成25年3月11日付24自第4657号福島県障がい福祉課長名で通知

のあった事故に該当する事故件数 ⇒ 0件

(8) 障害者の虐待防止に努めるため、職員(54名、無記名)を対象に「障害者虐待防止チェックリスト」を活用し調査(平成27年7月)を行いました。今回のチェックリストは、職員の虐待に対する認識や捉え方と施設側の体制整備の点検を主たる目的として実施しました。その結果、特に体制整備に関して明確になった課題は以下のとおりです。

- ① 成年後見制度、日常生活支援事業の説明と利用促進について
- ② 役員及び職員間の風通しのいい相互コミュニケーションによる支援・運営・経営に関する課題認識の共有化について
- ③ 行動障害を含む様々な障がい特性を踏まえた虐待防止の研修と専門性の向上に向けた取り組みについて
- ④ 事例検討のための統一書式を定め、事例検討会での活用について
- ⑤ 現場の幹部職員・中堅職員のスーパーバイザーとしての専門性の確保について
- ⑥ 職員の支援者としての悩みに対応できる職場体制と外部専門家との連携について
- ⑦ 職員の心身疲労・メンタルヘルスに対応できる職場体制と外部専門家との連携について
- ⑧ 職場のパワハラ・セクハラ・いじめ等の対応システムの確立と周知について

(9) インフルエンザやノロウイルスなどの感染性胃腸炎の予防に細心の注意を払い、感染を未然防止に努めた結果、集団発生はなく職員1名のノロウイルス感染に止めることができました。

(10) 職員の資質向上の観点から、個人研修計画に基づき積極的にOFF-JTを活用しました。職員の研修会の参加については、福島県社会福祉協議会研修センター主催の研修会を中心に参加し職員の資質の向上に努めました。併せて、法人主催の新任職員研修会にも参加するとともに、施設主催で毎月研修報告会を開催しました。また、自己啓発援助制度を積極的に活用し自己研鑽に努めました。

◎外部研修会参加状況；福島県社会福祉協議会研修センター主催研修会	16回	24名
福島県社会福祉協議会関係研修会	6回	7名
社会就労センター協議会関係研修会	3回	8名
身体障害者施設協議会関係研修会	6回	19名
その他の研修会・セミナー等	28回	46名
合計	59回	104名
◎内部研修会参加状況；法人主催 新任職員研修会	1回	6名
普通救命講習会	2回	7名
施設主催 勉強会	2回	43名
研修報告会	15回	327名
合計	20回	

◎自己啓発援助制度に基づく研修会参加状況 15回 25名

◎喀痰吸引研修(第三号研修)(特定の者対象)修了者(認定特定行為業務従事者認定証交付者)5名

◎喀痰吸引研修(第一号、第二号研修)(不特定の者対象)修了者(認定特定行為業務従事者認定証交付者)1名

(11) 毎月1回衛生委員会を開催し、職員の労働安全衛生に努めました。平成27年度における活動内容は以下のとおりです。

開催月	委員会議題	活動内容
4月	年次有給休暇の取得状況と取得の促進について	職員定期健康診断実施 花見会、歓送迎会実施
5月	メタボリックシンドロームについて 各種アンケート様式の検討	各種クラブ活動の推進
6月	職員定期健康診断の結果について 喫煙と分煙、副流煙について	メンタルヘルスチェックの実施
7月	メンタルヘルスチェックのアンケート結果について	暑気払い 虐待防止アンケート実施
8月	虐待防止アンケートの結果について	職員旅行実施（年間） 腰痛防止アンケート実施
9月	腰痛防止アンケートの結果について	防災訓練実施 けやき祭実施
10月	感染予防のための手洗い方法について	職員血液検査実施 （夜間勤務職員対象）
11月	職場の衛生委員会の円滑な進め方について	職員腰痛検査実施
12月	交通事故防止のためのビデオ上映	忘年会実施
1月	ストレスチェックの進め方について	
2月	花粉症対策と予防について ストレスチェックの進め方について	消防教育ビデオ上映会開催
3月	平成27年度活動報告 平成28年度活動計画（案）について ストレスチェックの進め方について	

(12) 福島県北地区における身体・知的・精神の三障害の施設・事業所・団体との連携を強化し、地域の中での福祉施設として、福島県北地区障がい福祉連絡協議会、福島市障がい者地域生活支援協議会及び伊達市自立支援協議会に参加し、その一翼を担いました。

(13) 平成27年度福島市障がい者週間記念事業の実務担当者として職員（2名）が参加し、障がい者週間の啓蒙活動に寄与しました。

(14) 中野地区展覧会の実行委員として職員（1名）が参加し、企画・運営に参画し、地域活動を支える団体としてその一翼を担いました。

(15) 中野地区大運動会の共催団体として実行委員会に職員（2名）が参加し、企画・運営に参画するとともに、利用者・職員が運動会の競技にも参加し、その一翼を担いました。

(16) 飯坂温泉ファイヤー祭2015「飯坂小唄流し踊り」に職員が参加し、地域活性化の一翼を担いました。

(17) 平成20年度より推進している「花いっぱい運動」を展開し、花と緑を大切にしたい潤いのある毎日を目指し、そこに住む人・そこに働く人、そしてそこに訪れる人に「癒しと安らぎ」を与えられるよう努めました。

(18) 原発事故に伴い社会福祉施設においても節電に対する取組みが求められるなか、平成27年度においても省エネ対策チームを中心として「省エネ、節電運動の推進・ご協力をお願い」を掲示するとと

もに、こまめな消灯やアイドリングストップ、空調温度の管理、自動ドアの電源オフなどの対策を行い、節電に努めるとともに、経費の節減・地球に優しい環境づくりに努めました。

(19) けやきの村三つの定め「利用者に質の高いサービスを」・「職員の生活安定」・「けやきの村の経営の安定」を基本として、全職員が意識を共有し、働き甲斐のある職場づくりに努めました。

3. 利用者へのサービス提供について

(1) 生活支援

- ①利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況およびニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づき適切なサービスの提供に努めるとともに、適切な時期にモニタリングを行い、利用者の実情に沿った計画の見直しなど、きめの細かいサービス提供に努めました。
- ②グループワークの場を活用し、対人関係におけるマナーと円滑な人間関係の形成や施設運営・行事、職員の接遇対応及び給食等に対する意見・要望を汲み上げました。
- ③日中活動としての創作活動（毎月第4水曜日）や喫茶（毎月第3水曜日）・集団レクリエーション（毎週月曜日）、朗読会（12月、2月）等レクリエーションメニューの充実を図り、自発的に参加する機会を提供するとともに、社会的な活動への動機付けとなる支援に努めました。

(2) 健康管理

- ①利用者の健康維持のため、利用者個人の障害程度や健康状態を把握し、日常の観察を密にして定期健康診断等を実施するとともに、嘱託医及び医療機関等との連携を行い、疾病の早期発見・治療に努めました。

- ・健康診断の実施

胸部レントゲン検査 受診者： 96名（全体～ 9月17日実施）

心電図・肝機能検査等 受診者： 98名（全体～10月22日実施）

貧血・尿・血糖検査等 受診者： 98名（全体～10月22日実施）

// （第2回目）受診者：100名（全体～ 3月10日実施）

- ・嘱託医の出務

生活介護～厚生会クリニック 毎週1回

就労支援～後藤医院 毎月2回

- ・機能訓練の実施 毎日

リハビリテーション実施計画に基づき、入所者及び通所者に対し、機能訓練やADL指導を行った。

- ・体重測定 毎月実施

- ・インフルエンザ予防接種 99名接種

- ・入院の状況

延べ入院者数 19名（実人員 14名）

- ②インフルエンザ及びノロウイルス等の感染予防対策として、食堂ホール、就労玄関に「電子式空気清浄機」（塩素系除菌水（ソリューション・ウォーター）を噴霧できる空気清浄機（リース対応）を、1F、2Fケアカウンターに同様の「ソリューション霧化器」を設置するとともに、廊下やトイレ前、居室前の施設内各所に手指消毒用速乾性アルコール液を配置するなどしました。

- ③利用者の健康に関する個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法等関連する規則を遵守し、健診結果や通院状況などの健康情報は適正な取扱いの確保に努めるとともに、利用者の情報を他の医療機関等と上手く共有し、継続的な治療と看護に生かしました。

(3) 給食

①献立は十分な栄養と変化に富んだ内容とし、また調理にあたっては利用者の嗜好や身体的条件による咀嚼や食事動作の障害を十分に考慮し、利用者に満足してもらえる給食の提供に努めました。

- ・嗜好調査の実施（3月1日～21日）
- ・給食委員会の開催 毎月実施
- ・選択メニューの実施 年40回
- ・鍋物の日の実施 年4回
- ・バイキングの実施 年2回
- ・治療食等の実施（平成28年3月31日時点）
 - 脂質コレステロール食 13名
 - カロリー制限食 5名
 - 塩分制限食 8名
 - 刻み食 13名（うち通所者3名）
 - 超刻み食 10名
 - ミキサー食 1名

- ・食品自主検査、検便、厨房内清掃は、給食業務委託業者において実施しました。
- ・防鼠、防虫施行管理業務は、委託業者において実施しました。

②災害発生時における復旧時までの非常備蓄品として、アルファ米・保存水・レスキューフーズ等の食品、簡易食器（紙皿・紙コップ・割り箸等）等を概ね4日分準備しました。

③入所利用者の栄養健康状態の維持や食生活の向上を図るため、個別の栄養、健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを実施するため、個々の利用者とのアセスメントを踏まえた栄養ケア計画策定のため、栄養ケアマネジメント会議を49回開催し、生活介護利用の入所者53名、就労系事業利用の入所者26名の計画を作成した。

(4) 就労支援

①就労継続支援B型事業所においては、利用者の障害状況や適性、地域の実情や景気動向を十分に勘案して作業種目を選定し、個別支援計画に基づき支援を行いました。

②工賃向上に向けた取り組みとして、主なものとして以下のことを行った。

- ・毎月の月例会において利用者に対し工賃向上の取り組みについて説明を行った。
- ・自主生産品として「ひょうたん」の栽培
- ・フルーツキャップの作業を丸三化成から内田化工へ変更（5月～）
- ・新規作業として電池外し（コスモ通信）を青松苑との共同受注（9月～）
- ・新規作業としてシール貼り（クサカ印刷）を受注（10月）
- ・新規作業として人參の皮むき（鈴商グリーン）を受注（8月～）
- ・新規事業としてギフトセット（日本ハム）の委託販売（7月、12月）
- ・福島市役所よりDVD印刷を受注（3月）
- ・年賀状印刷の一般顧客からの受注（11～12月）
- ・福島県授産事業振興会より印刷物の受注
- ・福島県赤十字血液センターより名刺印刷の受注
- ・新規事業としてアパートの定期清掃業務（施設外就労；野田鉄工）を受注（4月～）
- ・福島市で行う「展示販売コーナー」へ出店（年間6回）

③就労移行支援事業所においては、利用者的一般企業への就職を目標として、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等との連携を図り、求職活動の支援に努めました。また、利用者の就

②バスハイク

- ・生活介護 実施回数； 6回 30名参加（四季の里、ラウンドワン等）
- ・就労支援 実施回数； 1回 11月14日（会津若松方面）利用者26名、父兄4名参加

③一泊旅行

- ・就労支援 実施回数； 1回 7月3～4日（米沢、天童温泉方面）利用者29名、父兄7名参加

④ゴールデンウィーク・お盆休暇・年末年始休暇の帰省状況

- ・ゴールデンウィーク 22名
- ・お盆休暇 34名
- ・年末年始休暇 29名

（6）父兄参加・地域開放行事の実施状況

- ①花見会（4月25日実施）
- ②盆踊り大会（8月6日実施）
- ③けやき祭（9月27日実施）
- ④芋煮会（10月17日実施）

（7）対外行事等への参加状況

- ①三井流舞踊感謝大会（4月5日）10名参加
- ②福島県障がい者総合体育大会（5月17日）12名参加
- ③曙プレーキ納涼祭（7月25日）8名参加
- ④福島市障がい者スポーツ大会（10月10日）15名参加
- ⑤中野地区大運動会（10月11日）10名参加
- ⑥障害者週間記念事業ふれあいのつどい（12月5日）8名参加
- ⑦中野地区展覧会出品（2月6日～7日）

4. 事故防止について

（1）毎月の訓練については、火災・地震・水害等の非常災害時に利用者・職員が迅速・適切な行動がとれるよう、災害内容の想定や発災の時間帯等を工夫し訓練の充実を図りました。また、法人施設間・地域防災協力者・消防署・地域消防団など地域の方々との連携の強化のための「総合防災訓練」の実施及び「総合防災対策協力者懇談会」を開催しました。主な訓練内容は下記のとおりです。

- | | |
|---------------|------------------|
| ①避難訓練の実施 | 毎月1回 |
| ②総合防災訓練の実施 | 年1回（平成27年11月19日） |
| ③夜間想定防火管理検証 | 年1回（平成27年6月24日） |
| ④地震・水害想定避難訓練 | 年2回 |
| ⑤消防設備法定点検 | 年2回 |
| ⑥火気・電気設備自主点検 | 年6回 |
| ⑦防災講話（ビデオ上映） | 年1回（平成28年3月3日） |
| ⑧飯坂消防署による防火査察 | 年1回（平成27年7月17日） |
| ⑨総合防災対策協力者懇談会 | 年1回（平成27年11月19日） |
| ⑩法人内各施設合同通報訓練 | 年1回（平成27年8月27日） |

（2）新規採用者・異動職員を対象に、消火器・防火扉・非常放送等の施設内の設備及び取扱い方法を説明しました。

（3）新規採用職員等を対象に、年2回普通救命救急講習会を開催しました。

（4）新規甲種防火管理講習会に職員2名を派遣し、防火管理者の資格を取得させました。また、応急手

当普及員講習Ⅰ（3日間）に防火管理者1名を派遣し資格を取得させました。

(5) 福祉避難所の開設を想定して、小型自家発電機及びジェットヒーターの使用訓練を実施しました。

(6) 土砂災害の未然防止のために「防災対策～土砂災害等の未然防止のために」を基本として、土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所・地すべり防止区域および地すべり危険箇所等の情報を全職員で共有し、有事の際の対応に万全を期しました。なお、静心園南側堰坂地域が急傾斜地の崩壊による特別警戒区域（平成21年1月30日福島県告示第62号）となっています。

5. 訪問介護・居宅介護について

利用者が居宅において自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体その他の状況およびその置かれている環境に応じて、入浴・排泄および食事等の介護、調理・洗濯および掃除等の家事ならびに生活等に関する相談および助言その他の生活全般の援助の適切かつ効果的な実施に努めました。

※平成28年3月31日現在職員配置状況

項目	管 理 者	サービス提供責任者	訪 問 介 護 員	登 録 ヘルパー	合 計
員数	1名	2名		7名	10名
備考	常勤・兼務	常勤・専従		非常勤	

※平成27年度ヘルパーステーションけやきの村稼働状況

	介 護 保 険			障害福祉サービス		
	利用者数	派遣回数	稼働時間	利用者数	派遣回数	稼働時間
4月	58	640	483時間30分	2	26	34時間30分
5月	56	621	469時間55分	2	20	26時間30分
6月	56	603	470時間40分	3	35	43時間05分
7月	55	602	474時間50分	3	35	42時間00分
8月	52	542	433時間55分	3	36	41時間15分
9月	52	561	448時間05分	3	32	37時間15分
10月	53	572	459時間10分	3	34	42時間45分
11月	51	522	423時間45分	3	35	41時間35分
12月	51	539	426時間40分	3	35	41時間45分
1月	49	495	387時間00分	3	27	36時間15分
2月	49	520	423時間35分	2	24	28時間55分
3月	51	556	451時間20分	2	23	28時間25分
合 計	633	6,773	5,352時間25分	32	362	444時間15分
前年度	635	6,870	5,212時間15分	24	241	370時間20分

6. 特定相談支援事業について

平成27年4月から常勤専従1名、常勤兼務2名の体制とし、けやきの村、青松苑、静心園の3施設だけでなく、在宅障がい者に対しても下記のとおり実績を上げることができました。

※特定相談支援事業所におけるサービス等利用計画作成契約者数

	契約者数
けやきの村利用者	50名
青松苑利用者	26名
静心園利用者	42名
在宅生活者	31名
合 計	149名

7. 施設の利用状況（各月初日現在在籍者数）

	入 所				通 所				合 計
	生活介護	就労B型	就労移行	計	生活介護	就労B型	就労移行	計	
4月	52	26	1	79	3	23	6	32	111
5月	52	25	1	78	3	23	6	32	110
6月	51	25	2	78	3	23	6	32	110
7月	51	24	2	77	3	23	6	32	109
8月	52	24	2	78	3	23	6	32	110
9月	50	24	2	76	4	23	6	33	109
10月	51	24	2	77	4	24	5	33	110
11月	52	24	2	78	5	25	4	34	112
12月	51	24	2	77	5	25	4	34	111
1月	51	24	2	77	5	26	4	35	112
2月	52	24	2	78	5	24	4	33	111
3月	52	24	2	78	5	24	4	33	111
合 計	617	292	22	931	48	286	61	395	1,326
(平均)	51.4	24.3	1.8	77.6	4.0	23.8	5.1	32.9	110.5
前年度 (平均)	51.9	25.1	1.0	78.0	3.2	22.9	6.8	32.9	110.8

3/31現在	50	22	2	74	5	25	4	34	108
--------	----	----	---	----	---	----	---	----	-----

8. 新規利用者及び退所の状況

	新規利用者	退 所 者	備考（退所者の状況）
生活介護	4	6	死亡4名、他施設（障害者支援施設）へ入所1名、自宅へ1名
就労B型	5	7	契約終了2名、事業変更（就労B⇒生活介護）1名、就職1名 地域移行1名、死亡2名
就労移行	11	10	事業変更（移行→B型）1名、アセスメント実施者9名
(合 計)	20	23	

9. 定員充足率（平成28年3月31日現在）

	定数	現員	充足率	備考
生活介護	52	55	105.8%	
就労B型	50	47	94.0%	
就労移行	10	6	60.0%	
(合計)	112	108	96.4%	
施設入所	80	74	92.5%	

10. 障害支援区分状況（平成28年3月31日現在 通所者は除く。）

	生活介護	就労B型	就労移行	合計	割合	割合（前年度）
6	12	0	0	12	16.2%	11.4%
5	12	0	0	12	16.2%	16.5%
4	12	4	1	17	23.0%	19.0%
3	12	9	0	21	28.4%	31.6%
2	2	7	1	10	13.5%	13.9%
1	0	2	0	2	2.7%	3.8%
区分無	0	0	0	0	0.0%	3.8%
合計	50	22	2	74	100%	100%
前年度	52	25	2	89		

11. 短期入所の利用状況

	利用者数	利用日数		利用者数	利用日数
4月	6	20	10月	9	26
5月	10	34	11月	10	30
6月	9	28	12月	10	51
7月	10	39	1月	10	53
8月	9	34	2月	7	26
9月	9	28	3月	7	24
			合計	106	393
			前年度	78	291

12. 通所利用状況（就労支援事業利用者）

	利用者数			基本日数	平均 利用日数	利用率	備 考
	B 型	移行	合計				
4月	23	6	29	22日	17.2日	78.2%	
5月	23	6	29	23	17.1	74.3	
6月	23	6	29	22	17.2	78.2	
7月	23	7	30	23	16.2	70.4	
8月	23	6	29	23	17.2	74.8	
9月	23	6	29	22	16.8	76.4	
10月	24	6	30	23	17.8	77.4	
11月	25	5	30	22	15.6	70.9	
12月	26	5	31	23	16.0	69.6	
1月	26	6	32	23	15.3	66.5	
2月	24	7	31	21	14.7	70.0	
3月	25	5	30	23	17.3	75.2	
合計	288人	71人	359人	270日	198.4日	73.5%	前年度78.1%